

科目名	e ビジネス論				
授業形態	講義	学年	2		
開講時期	2022 年度 前期	単位数	2		
担当教員	角 淵 渉				
内容および計画	<p>この講座ではビジネスの世界での I C T活用を理解するために、その歴史と変遷をたどりつつ、e ビジネスの今と将来像を考えていきます。同時にリアル主体のビジネスをe ビジネスに進化させることを想定した総合演習（グループ討議形式）を通じて、e ビジネスを企画するための知識と発想法を学びます。</p> <p>授業は、奇数回は講義、偶数回は演習（グループ演習、個人演習）という流れで進めます。序盤・中盤は知識学習とそれを前提とした討議中心に進めます。並行して調べ学習（発表あり）を行います。終盤はモデル企業が行うビジネスをe ビジネスに進化させる総合演習を行います。</p>				
1	<講義①>オリエンテーション e ビジネスのビジネスモデル				
2	<演習①> e ビジネスのビジネスモデルの調査・分析				
3	<講義②> B t o C の e ビジネスの動向				
4	<演習②> B t o C の e ビジネスの調査・分析				
5	<講義③> B t o B の e ビジネスの動向				
6	<演習③> B t o B の e ビジネスの調査・分析				
7	<講義④> e ビジネスを支える技術動向（物流、金融、マーケティング）				
8	<演習④> e ビジネスを支える技術動向の調査・分析				
9	<講義⑤> e ビジネスをめぐるセキュリティ問題				
10	<演習⑤> e ビジネスをめぐるセキュリティ問題の調査・分析				
11	< e ビジネスプランニング①>モデル企業の紹介				
12	< e ビジネスプランニング②>ビジネス環境の理解				
13	< e ビジネスプランニング③>ビジネスモデルの設計				
14	< e ビジネスプランニング④>リスク評価と対策検討				
15	< e ビジネスプランニング⑤>ビジネスプレゼンの最終準備				
教科書					
	タイトル	著者名	出版社	ISBN	発行年
	e ビジネス DX の教科書	幡鎌博著	創成社	9784794425980	2022
その他に配布資料あり					
参考書	参考WE B サイトなどを授業中に紹介します。				
成績評価					
	評価方法				割合(%)
	出席状況				50
	各回の成果物の質（グループ成果物）				5
	各回の成果物の質（個人成果物）				25
	総合演習の成果物の質（グループ評価）				15
	プレゼンテーションへの貢献度				5
学習到達目標	e ビジネスの現状の理解を通じて、未来の e ビジネスの可能性を考える力を身につける。最終的に「自分なりの e ビジネスの定義」を確立することを目指します。				

先修条件	なし
実務経験	実務経験あり：ソフトウェアハウスにて情報システム開発に従事。国内系コンサルティングファームと監査法人系コンサルティングファームにて、情報システムコンサルティング業務に従事。この経験をもとにeビジネス論について教授する。
その他	15回目に引き続き、16回目に発表と評価を行う。